

坂本鹿名夫の経歴と 北海道の円形校舎竣工までの年表

昭和22年	坂本鹿名夫が文部省の学校建築標準化の委員会に大成建設の上司の代理で出席
昭和24年	学校の標準設計を反映するモデル校の設計で2つの円形平面を矩形で繋ぐ校舎の構想を提案するが採用されず
昭和27年	金城高等学校の設計で1棟分のみに円形平面の設計が採用される
昭和29年	坂本鹿名夫が大成建設から独立し、建築総合計画研究所を設立
昭和31年	6月 北村中央小学校 竣工 (高岡仁三郎設計) 6月 江別第三小学校 設計完了 (坂本鹿名夫設計) 7月 石狩小学校 竣工 (大成建設設計) 8月 朱鞠内小学校 設計完了 (坂本鹿名夫設計) 9月 石山中学校 設計完了 (坂本鹿名夫設計) 11月 阿寒湖畔小学校 竣工 (田上義也設計)
昭和32年	6月 江別第三小学校 竣工 (坂本鹿名夫設計) 10月 朱鞠内小学校 竣工 (坂本鹿名夫設計) 10月 石山中学校 竣工 (坂本鹿名夫設計) 10月 木古内小学校 設計完了 (坂本鹿名夫設計) (第1期) 11月 木古内小学校 竣工 (坂本鹿名夫設計) (第1期)
昭和33年	3月 絵鞆小学校 設計完了 (坂本鹿名夫設計) (第1期) 7月 木古内小学校 設計完了 (坂本鹿名夫設計) (第2,3期) 12月 絵鞆小学校 竣工 (坂本鹿名夫設計) (第1期) 12月 木古内小学校 竣工 (坂本鹿名夫設計) (第2期)
昭和34年	5月 絵鞆小学校 設計完了 (坂本鹿名夫設計) (第2期) 11月 木古内小学校 竣工 (坂本鹿名夫設計) (第3期)
昭和35年	沼東小学校 竣工 5月 絵鞆小学校 竣工 (坂本鹿名夫設計) (第2期)
昭和36年	稲穂小学校 竣工 札苅小学校 竣工 (坂本鹿名夫設計)
昭和37年	10月 太陽小学校 竣工
昭和41年	5月 泉沢小学校 竣工 (坂本鹿名夫設計)
昭和42年	1月 古部小学校 竣工

北海道の円形校舎の建てられた背景

阿寒湖畔小学校 | 田上義也設計 昭和31年竣工

関東大震災を受けて北海道へ

北海道に向かう道中で、アイヌの教育に力を入れていた宣教師のパチェラーと出会い、居候し、北海道での初仕事として、パチェラー学園を設計

阿寒湖畔小学校の設計の際に北海道教育委員長の仲介

北海道教育委員長 木呂子敏彦

田上義也を紹介

昭和三1年にマリモが特別天然記念物に指定

マリモをモチーフにしていると考えられている

北村中央小学校 | 高岡仁三郎設計 昭和31年竣工

北村出身で設計依頼を受ける

北村小学校 赤川小学校

統合

北村中央小学校

昭和三1年 北村小学校浸水

昭和三2年 児童数1000人を突破
昭和三3年 児童数1400人に到達
昭和三3年 時間帯を分けて授業を行う二部授業が必要に

環境整備の陳情

保護者

絵鞆小学校

同予算でより多く教室を失うことができる円形校舎を採用

石山中学校 | 坂本鹿名夫設計 昭和32年竣工

昭和三1年に中学校の生徒数がピークになると予測

昭和三1年に近くの小学校で起きた火災によって石山中学校は全焼

昭和三2年 校舎増改築五カ年計画

昭和三1年 新中学校の建設計画

教室不足解消の計画に24教室が失われた

絵鞆小学校 | 坂本鹿名夫設計 昭和33,35年竣工

大正5年建築の校舎が老朽化し、廊下に雪が積もり、授業前に校舎内を除雪しなければいけない状態だった

教室不足の解決を重視

同予算でより多く教室を失うことができる円形校舎を採用

北海道の円形校舎の現状・活用比較

北海道の円形校舎の現状・活用

宿泊施設 幌加内町 朱鞠内小学校
団体客向けの体験型宿泊施設 蕎麦打ち体験など

検討中 石狩市 石狩小学校
歴史や文化(鮭漁や芸術作品など)の展示施設とする検討

収蔵庫 小樽市 石山中学校 函館市 古部小学校
博物館や出土品の保管に使用 老朽化によって収蔵物の移転や解体が検討されている

放置 羽幌町 太陽小学校 美幌市 沼東小学校
太陽小学校は平成30年に積雪の重さで屋根が崩壊 沼東小学校は廃墟スポットに

北海道外の円形校舎の活用事例

鳥取県 明倫小学校

フィギュア制作大手会社

老舗フィギュアメーカー

アニメなどの制作会社

協力

フィギュアミュージアムとして活用

平成30年度開館 令和元年度の来場者数5万人弱

特定の地域に関わりがあるだけでなく、アニメやキャラクターなど幅広い世代や地域の人々が親しみやすい企画や展示を行っている

山形県 次年子小学校

陶芸作家が陶芸に適した土があることを発見

移住

陶芸工房として活用

陶器の浴槽制作などを中心に行い、ギャラリーや陶芸教室、カフェを開いている

観光目的よりも工房として、仕事場としての役割が大きいが、常時人が使用していることから建物の異変にも気づきやすい

室蘭市 絵鞆小学校の保存までの流れ・現状

平成27年度では、教室棟と体育館棟を対にして、校庭が遺跡だったことから遺跡出土品を保存・公開する施設として活用する方向性が示されていた

平成28年度
やはり体育館棟は耐震性に問題がある。民間に売却もしくは解体する方針。良い活用案があれば民間に売却する。

平成30年度
体育館棟の耐震補強の方針と保存活用のコンセプトを提示。

令和元年度
より実現可能だと判断できる案が出なければ、11月に体育館棟を解体する。8月に最初で最後の一般公開をする。

令和元年 市民団体がクラウドファンディングを行い、体育館棟を買い取った

令和4年 市民団体が3~10月に市から教室棟での縄文時代の遺跡出土品などの展示を委託され、教室棟一般公開と来場者への体育館棟の案内などに行い、夏休み期間だけでも約2000人の来場者数を記録した

結果考察

坂本鹿名夫が北海道に円形校舎を建てるまで円形校舎が建てられた地域の共通点とは

01 坂本鹿名夫の親族

坂本鹿名夫の姉妹の配偶者が北海道に関わりのある岩田家の人物であることが明らかになった。その親族が円形校舎の設計に至るまでに直接関わったかまでは明らかにならなかったが、親族から北海道と結びつきがあることがわかったため、関わっている可能性はまだあると考えられる。

02 北海道の円形病棟

坂本鹿名夫は円形校舎の他に昭和31年3月に室蘭病院伝染病(常盤ヶ丘病舎)、昭和32年9月に遠軽厚生病院の2つを設計していた。

03 北海道で初の円形校舎

北海道で初めて設計されたことされる石狩小学校は大成建設によるものであるが、坂本鹿名夫の大成建設からの独立時期を見ると坂本鹿名夫が関わっていると考えにくい。

02、03から坂本鹿名夫が北海道で初めて円形建築を手がけたのは室蘭市の室蘭伝染病院(常盤ヶ丘病舎)である可能性が高いと考えられる。

04 円形校舎周辺の地域性

北海道の円形校舎が建てられた地域は、炭鉱、鉄鋼、港、鉄道が発展して互いに結びつきのある地域の他、漁業の環境整備が進められていた地域が多く、円形校舎が各地域の産業面からの結びつきを通して広まった可能性もあると考えられる。

室蘭市 絵鞆小学校の活用

現在の活用における課題

耐震補強

耐震性がないことから市が手放そうとしたものであり、耐震補強は買取時にも必須条件だったので、耐震補強工事をしておく必要がある。

不特定多数の呼び込みへの対応

児童と教師という特定多数向けの建築のため、イベントなどで不特定多数を呼び込みない状況。現在は少数での映像撮影場所などとして活用中。

教室棟の扱い

教室棟は市が所有しているため、体育館棟とセットで活用していきたいところだが、来場者数増加などで市からの信用を得る必要がある。

絵鞆小学校の現在とこれからの保存活用について保存活動を行い、体育館棟を所有する市民団体「むろらん100年建造物保存活用会」の代表者村田氏と三木氏に話を伺った

観光施設としての展望

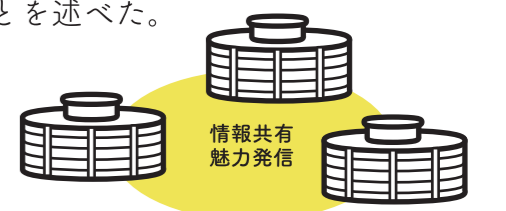
絵鞆小学校は、室蘭市の湾にかかる橋の麓にあり、道の駅や水族館からも比較的近い位置にある。また、屋上からの眺めも良好であることから、村田氏はランドマークとして街を活性化させることができる可能性が高いと考えている。村田氏は北海道内を旅行することが多い北海道民を中心に道の駅を訪れた人に絵鞆小学校にも来てもらえるようにしたいと述べた。

絵鞆小出身の協力者

絵鞆小学校出身の俳優、安田顕は、番組での室蘭市訪問で絵鞆小学校を紹介し、村田氏から見て、絵鞆小学校思い出が強い印象を受けたという。また、安田顕の両親も絵鞆小学校の募金者への礼の押し花の寄付や安田顕が来訪した番組放送後に礼に訪れるなど協力的である。

円形校舎間のつながり

現在は円形校舎はそれぞれで保存活用の方針が決まられ、連携はしていない。そのような中で、三木氏は一般公開時に他の円形校舎出身者が訪れた際、全国の円形校舎を繋ぐことができると良いという話があったという。三木氏は、円形校舎の魅力などを共有し、広めていきたいという思いがあることを述べた。



まとめ

本研究では、北海道の円形校舎の現状や分布をまとめた。また、北海道の円形校舎が建てられた背景としては、ペーパーームによる児童生徒数の急増による教室不足の解消が求められたことに加え、校舎の老朽化による保護者からの環境整備への意見が強まっていたことや災害からの素早い復興が求められていたことも関係していることが明らかになった。また、坂本鹿名夫以外の設計者で明らかになっている人物は北海道に関わりがあることも明らかになった。さらに、坂本鹿名夫が北海道に8校の円形校舎を設計するまでに至る背景については、親族から北海道に関わりを持った可能性、北海道で初めて設計した円形建築は室蘭市の病棟である可能性が高いこと、円形校舎周辺の地域性に共通点や関連性があることを考察した。

北海道の円形校舎は、現存されているもののうち具体的な活用に踏み切ったものは少ないことが明らかになった。また、炭鉱などの遺産群では結びつきがあるのに対して、円形校舎間の連携は取られていないことがわかった。本研究では私の出身地である北海道に絞り、設計者や地域性と円形校舎の関連性を考察したが、関連性を決定づける情報を得ることはできなかった。より具体的な関連性が明らかになれば、円形校舎の価値をより認識しやすくなるのではないかと考える。また、円形校舎が建てられた地域に共通性や共通性があるのかという点は今後、全国的に数が少なくなっている円形校舎を結びつけて、保存していくことを考えるのであれば有効な情報になっていくと考えられる。